
何もない世界

オレンジジュース 0 %

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

何もない世界

【Nコード】

N4692X

【作者名】

オレンジジューズ0%

【あらすじ】

僕の世界に不思議な物は何一つとして必要のない物である。たとえば、世界が世界としておかしくても僕は知らない。見てない。聞かない。

第一話 日常（前書き）

今日もなにもなかった。

第一話 日常

まず、初めに僕の名前は佐藤早紀さとう さきという。そこらへんにいるであろう女子高校生略してJKである！えへへへ

ん？そんなことはどうでもいい？うん、わかってるさ。でも、一応形式美というものを実践してみたかったのだよ？と僕は主張してみたかったりするわけさ。

ん、そんなわけで僕の自己紹介は覚えてたら後日記載することとで期待して待ち続けてもいいよ？僕としてはその心意気は応援したりしなかったりするよ？でも、もしも記載することがなかったとしても僕としては謝るつもりないし何かするわけでもないんだけどね？

ん？わかってるよ、さっさと本編を始めろ？はいはい、わかってるさ！

じゃあ、ここからが本編のはじまりはじまり

世界は混沌の渦で巻き込まれ人々は逃げまどい阿鼻叫喚がとどろくばかりであった。

そんな中、勇者佐藤早紀は立ち上がったのである！

っという夢を見たんだ」

「へへ、で？」

「いや、でって言われても答えられなかったりするんだな！これが！」

「勇者なんでしょ？お金ちょうだいよ」

「いや、それはかつあげっていう脅迫だからね？僕、現実では勇者どころか体力のないただの女の子だからね？」

「役に立たないね」

「現実はそのまんまだよ。たとえば、24時間テレビは募金が2億円だった時の制作費9億円で、その時TVの向こう側で涙流してたタレントギャラが有料で下手したら募金額を超えることとか信

じたくないことは、この世にたくさんあるんだよ!」

「ふん、そうなんだ。あつ、今日日直だから先いくね?」

「いつてらっしやい!」

こうして今日も日常が始まったり始まらなかったりするよつで普通に学校生活が始まるのであった。

さて、日直の仕事をしないとな。

第一話 日常（後書き）

こんな日常。

第二話 その日の続き（前書き）

今日も何も起こらなかったと思う。

第二話 その日の続き

さて、問題が生じた。

うん、確かに問題だと思う。なぜならば今は朝のホームルームとかがつがなく終わり途中遅刻して教室に入ってきた何故か服装が崩れてて怪我を負ってる男子が、

「魔物に近所のおばあちゃんが襲われていたのでその魔物と戦ってきました！ぎりぎりですべて勝てたけど予想以上に時間がかかったので遅れました！すみません！！」

と言いわけをしてたとかそんなことがあったりしたけどそこは問題でもなんでもない日常であるわけなんだけれども、今現在は一時間目の授業中なわけで……

ここにきて問題が発生した。いや、なにか事件とかが起きたわけじゃなくて、普通に小テストが突発的に開始されたわけで、テスト自体には何も問題はないんだけど、うん。小テストの時間制限は10分。僕は開始5分で終わってたりするんだけど、そんなことは何も問題じゃないんだ。

何が問題っていうと………

・・・・すぐトイレに行きたいです！

いや、これには参った参った。突然の排尿感。どうしたものか、花の女子高生がハイニョウカンとかいうなって？ははっ、そんな余裕なんてとつくの昔にどこかにいったわけだ。

まあ、普通に手を挙げてトイレに行かせてもらえばいいのかもしれない

れないけど、

『恥しいじゃないか！』

考えてもみたまえ！花の女子高生が！頬を微妙に染めて、クラス
の皆がいるなかで手をあげて、しかも今は小テスト中だから先生は
手元の教科書を見るからそこに声をかけないといけないわけで。
それによってクラス中の視線を一斉に受けるわけで。しかも先生を
呼んだ理由が『トイレに行きたいから』。うん、恥ずかしくて言え
ないわけで。

こんな僕でも、一応好きな人とかいるわけで、それが誰かはここ
には記載しないけどもさ、噂とか広がったりしたら嫌なわけで。

さっきから僕がそわそわしてるのを見て隣の席の友達の・・・名
前は忘れた友達の子が「大丈夫？」って聞いてきたから「大丈夫」
って即答してしまった僕のばかぁとか今現在思ってたりするんだ
けどね？

そして、なにより今はまだ一時間目の最初。3〜4時間目とかな
らまだしも一時間目だし、なんで休み時間のうちにいかなかったの
かも言われるし、そしてなにより先生が男の人だっていうのもある
わけでして、はい。うん、そろそろきつかったり。

でも、このままだと我慢できそうにないから言わないといけない
わけで。このまま時を待つにしても、授業開始からまだ8分。次の
休み時間まで途方もない長さのように感じられるわけで。足をこす
りあわせてしまう程度には限界が。

うん、ピンチです。絶望感しか感じません。

まあ、結局の話は、小テストが終わるタイミングで、理由も変えて『トイレに行く』のではなく『気分がすぐれないから保健室に行く』にしたわけで、それでも結構恥しかったりしたんだよ？皆から心配そうな目で見られたりしたからね？皆は僕の体調がわるいから心配してるんだろうけど、僕はトイレに行きたいだけだからさ。保健委員の人には断わって、教室からでたら頑張ってトイレにいったさ！うん、安心したよ。あ、普通に保健室にも行ったよ？一応、理由としては保健室に行くだったからね

追記・保健室に行ったときにわき腹のほうが痛くなってきて見てもらって病院のほうで調べてもらったら盲腸でした。・・・保健室に行っ
てよかった。

第二話 その日の続き（後書き）

今日も平和だ・・・

第三話　そして日常（前書き）

日常はまた日常。今日も平和だ・・・

第三話　そして日常

さて、前回の話を簡単にまとめると盲腸で病院に行ったと。（作者の大事な妹が）

「ところでさっちゃんはまだ体大丈夫なの？」

そう！僕の名前は、佐藤^{さとう}早紀^{はなき}だ。前回というか二週間前、盲腸で手術って、なぜか待合室で8時間以上も待たされた上に忘れ去られていたせいか、症状が悪化していろいろひどくなって予定よりも長く入院することになってしまった佐藤早紀である。・・・だれに説明してるんだか。いや、そんなことよりも・・・

「・・・」

「え！？どうしたの？どこか痛いところとかあるの！？」

こっ、これはどういうことだろう！いつも反応がどこか冷たいこの友人がなぜか優しい。明日は魔王でも降って来るのではないか！本気で疑ってしまった！いつもならここで手術跡めがけてボディーパーを仕掛けてきてもおかしくないのになにもない、そしてこの優しい言葉である。しかもうつすら頬を赤くしてくれている。こっこれはまさかあの・・・

「・・・これがツンデレというもののなのか（ボソッ）」

「え？なにか言った？」

「んゝん なんにも」

今日も一日平和である。

キーンコーンカーンコーン

さて、一時間目が始まったわけだが特に書くこともないだろう。ただ、今日も遅刻君（今、命名）が、何故か服装をぼろぼろにして頭から血？いや、きつとペイントをつけて「今日はちよつと吸血鬼と戦ってきました。いや、襲われてる女性を見過ごすわけにはいけませんから」とか意味のわからない言いわけをしていたが、なぜだか教科担当の先生は笑って許していたわけだが、授業後にあつちやんに聞いてみたら毎日何かと戦っているらしい。・・・あんな凝った格好してくる時間があつたらすぐに学校にすればいいのに。目立ちやがりなのかな？

そんなこんなで昼休み。僕の学校では、昼休み開始5分で売店のものはたいてい売り切れになるので、お弁当を持参しないと普通はこんな普通の体力もない僕は、昼食を食べることもできないわけだけど。退院直後の僕はそんなことさえも忘れていたわけだが。いや、ながながと現実逃避をするのはやめにしよう。なぜなら・・・

「ん？どうしたの？たべないの？」

あつちやんが僕の分のお弁当も作ってきてくれます！これはデレ期ですか！？デレ期なんですか！？ん、でもやっぱり食べたくないわで・・・

「もう！そんなにいうなら食べさせてあげる」

いや、そんな笑顔で言わないでください。恥ずかしいじゃないですか・
・そんなことよりも、そんなに真つ黒焦げになってるわりにすごい甘い臭いのする生クリームの乗った唐揚げ（あっちゃん曰く）をこっちにむかつて食べさせようとししないでください！なんの罰ゲームですか！？これは！！

「ほおら」

「むげらっ！！！？？・・・・・・・・ほわえあ・・・・・・・・みゃああ！！！」（ガク

一瞬、あの世のお花畑と三途の川が見えた気がします。いいえ、
確実に見えました。だって、向こう岸におばあちゃんがみえたもん。

「ほおら もう一口」

あつ、あなたはなにに怒ってるんですか！？あれですか？今日、
朝からデレてるように見えたのは怒ってるからで、ここまでのブラ
フですか！？

しばらくお待ちください。ここから10分間友人に無理やり黒
い物体を押し込まれます。手術跡を触りながら・・・。

後半に続く

第三話　そして日常（後書き）

そんな日常。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4692x/>

何もない世界

2011年10月27日02時10分発行